



特定外来生物ナガエツルノゲイトウの水田地帯での 分布拡大とピラクロニルの除草効果

～ピラクロニルはバッチリ、バッチリ LX / デルタアタック、アップバレZ、サラブレッド KAI 等に含まれる成分です～

近年、全国各地の田畑輪換畑のダイズ栽培では、帰化アサガオ類、ヒロハフウリンホオズキ、アメリカカツノクサネム等の外来雑草が蔓延し大きな問題となっている（徐 2018）。外来雑草の問題は、単に畑地だけではなく、水田でも見られている。この代表的なものには、関東以西でのヒレタゴボウ、ホソバヒメミソハギ、また、九州でのナガボノウルシがある（協友アグリ株式会社 2015, 2017）。

千葉県印旛沼流域の水田地帯では、南米原産の特定外来種*ナガエツルノゲイトウが蔓延している。しかし、その防除体系が確立されていないため、嶺田・芝池（2019）は現地で水稻除草剤試験を開始している。これまでの結果から、ナガエツルノゲイトウの防除にピラクロニルは有効であることが示唆されており、本 NEWS にて紹介する。

ナガエツルノゲイトウは、ヒユ科の多年生種で、国内では関東以西の水路、河川、湿地帯、水田、畦畔等、広く見られている。茎は 0.5～1m、中空で太さ 4mm 程度。基部は横に這いながら分枝し発根する。葉は対生、無柄または 1～6mm の柄を持ち倒卵形～倒広披針形、長さ 2.5～5cm、細かい鋸歯を持つ（国立環境研究所）。開花時期は 4 月～10 月で、花は白色～灰白色、球状で直径は 12～16mm、1～4cm の柄があり、1～2 個の花序が葉の腋につく（写真①～⑥）。日本国内では種子は形成しない

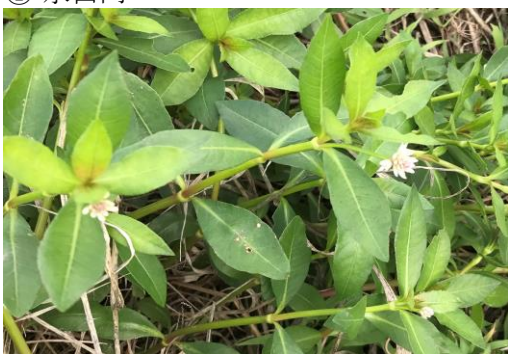
日本国内での最初の定着記録は 1989 年、兵庫県尼崎市であった。アクアリウム観賞用等に導入後、野外に逸脱したと考えられる。これらは、水路等に繁茂すると、水の循環を悪くし洪水の原因ともなる。本種は、乾燥にも強く、秋耕され切断茎は翌春には芽を出し発生源となる（国立環境研究所）。用水路網を介して流域全体に蔓延していくため切断茎は水田内に容易に侵入してくる。水田内では、水稻にもたれかかるように成長するため、水稻の生育を阻害し、収穫作業の障害となる（嶺田・芝池 2019）。



① 水田内



②空洞の茎



③葉と花



④節からの発根と萌芽

写真①～④：千葉県八千代市（2019 年 6 月上旬）、⑤～⑥：千葉県八千代市（2019 年 10 月上旬）



⑤ 畦畔での繁茂



⑥ 水田刈跡での生育

* **特定外来生物** (環境省 <https://www.env.go.jp/nature/intro/1law/outline.html>) : 特定外来生物とは、外来生物 (海外起源の外来種) であって、生態系、人の生命・身体、農林水産物への被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から指定されます。特定外来生物は、生きているものに限られ、個体だけでなく、卵、種子、器官なども含まれます。

ピラクロニル剤のナガエツルノゲイトウに対する除草効果試験事例 (2018 年千葉県八千代市)

ナガエツルノゲイトウ防除試験における処理体系と水稲登熟期 (8月30日) の残草量 (嶺田・芝池2019より抜粋・改編)

試験区	処理体系	薬剤	移植日	薬剤処理日	水稲登熟期残草量 (乾物重 g/0.25m ²) n=9		
					ナガエツルノゲイトウ	その他雑草 ¹⁾	計
①	無処理				10.61b	13.33b	23.94b
②	初期剤 + 初中期剤	ピラクロニル粒剤 (ピラクロ ン) + イマズスルフロン・ピラ クロニル・プロモブチド粒剤 (バッチリ)	5月2日	5月9日 5月30日	0.65a	0.18a	0.83a

異なるアルファベット間には有意な差が認められた ($p < 0.05$, Tukey-Kramer test).

1) その他雑草には、コナギ、オモダカ、イボクサ、イヌホタルイ、ヤナギタデ、アゼナ類、トキンソウなどが含まれる。

2) 薬量は 1kg/10a.

3) 無処理区では移植直後からナガエツルノゲイトウの萌芽が見られ、その後 10% 前後の被度で推移した。

結果: ピラクロニル 1 キロ粒剤とバッチリ 1 キロ粒剤の体系処理は、ナガエツルノゲイトウおよびその他雑草に対して高い除草効果を示し、ナガエツルノゲイトウの防除に有効である。

参考文献

国立環境省研究所. <https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/81140.html>

協友アグリ株式会社 2015. ピラクロニル NEWS 7 号.

協友アグリ株式会社 2017. ピラクロニル NEWS 15 号.

嶺田拓也・芝池博幸. 2019. 日本雑草学会第 58 回講演会講演要旨. pp27.

徐 錫元 2008. 雑草研究 63(1), 1-2.

謝辞: ナガエツルノゲイトウに対する種々の情報を頂き、また、除草剤試験結果の一部の掲載をご快諾頂きました農研機構農村工学部門の嶺田拓也博士に感謝申し上げます。

発行 協友アグリ株式会社 普及・マーケティング部

〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町 6 番 1 号山万ビル 11F

(TEL:03-5645-0706)

<http://www.kyoyu-agri.co.jp/>